

水道水と市販ミネラルウォーターの比較

—ミネラル成分によるグループ化と味の評価に關与する要因抽出—

池 晶 子・川 瀬 雅 也

水道水に比べ味がよいイメージのある市販ミネラルウォーターについて、ミネラル元素濃度やTOC値と味評価の關係を分析し、水道水と比較した。ミネラルウォーターは水道水と同様にCaやMg濃度の低いものの味が高く評価され、硬水ミネラルウォーターは、多くの水道水より低評価であった。TOC濃度の味評価への貢獻が低いことも水道水と共通していた。しかし軟水ミネラルウォーターはほぼ高い評価を受けていたのに対し、軟水の水道水の半数は低評価であった。味評価を目的変数とした判別分析では、ミネラルウォーターではCa、水道水ではCaに加えSiの貢獻が示唆された。味の評価には、水の硬度だけでなく構成するこれらのミネラル元素の相互作用が關与している可能性がある。

ヒトの食欲と食行動の起源と適応進化

岡 井 康 二・岡 井（東）紀代香

ヒトの体内で食欲と食行動を巧妙にコントロールする制御システムが構築されている事が現在、明らかにされつつある。すなわち甘味、酸味、塩味、苦味、うま味などの基本味を評価する味覚の感知・記憶システム、そして海馬・扁桃体などの大脳辺縁系や前頭葉などによる食物の好き・嫌いの判断をするシステム、また様々な食欲制御物質や末梢自律神経系と中枢神経系の働きによる制御システムが存在する。これらのヒトの食欲と食行動の制御システムに関する最近の研究の発展をまとめるとともに、その課題と問題点を議論する。

イギリスのワールドスタディーズを視座としたアジアのケア理解

—ベトナムの国立社会保護センターでのケア事情に関する考察—

渋谷 光 美

日本では、後発・発展途上国のケア事情への関心は極めて希薄である。アジアでのケアに関するミクロ的研究成果といかに向き合い、社会発信するののかという問いに呼応したのが、イギリスの1980年代のワールドスタディーズであった。(1) 自国中心的な文化的価値観に偏重しない姿勢、(2) 当事者側の声の把握と傾聴姿勢、(3) 本質的な次元における自己課題として、主体的に向き合う姿勢、それらを視座とすることを確認し、ベトナムの国立社会保護センターでのアンケート調査結果の考察を行った。ベトナムの気候・風土や生活習慣など、歴史・文化的理解を共有し、生活支援上の改善に向けた協働的検討が不可欠であることが示唆された。

さくら染め布の色彩分析

—第4報 抽出液の酸化の影響—

清水尚子・山口律子

本研究は、環境を破壊することなく持続して資源の有効利用ができる染料素材として、さくらを取り上げ、白布のみならず退色した布を染め直し再利用することも念頭に置き、第1報でサクラの小枝と蕾、第2報で緑葉、第3報で黄葉や紅葉の染色性を比較検討してきた。本報では、染色布の黄みを弱め、赤みを強めて、サクラの花のイメージに相応しいピンク系、ローズ系の赤い色に近づける染色方法について、抽出液の酸化方法の違いから検討した。その結果、抽出直後よりも、数日間放置した染液で染色した方が、染色布の赤みが強まり、さらに数日間放置した染液よりも再沸騰と放置を繰り返した染液で染色した方が、より染色布の赤みが強まることがわかった。

泌尿器科領域からみた医療的ケア

—サマリア人法を中心とした考察および社会システム間の齟齬—

松 田 久 雄

医療的ケアを生活支援行為とする社会コンセンサスを得る手段となり得るのは何か、そして、逆に何が、ケアの拡大を制限するのかの検討も必要となる。そのために、医療的ケアを施行されている側の患者の当事者主権に主眼を置いた、介護現場の認知的規範での再検討こそが今後必要となってくる。しかし医療的ケアという優しい言葉は、安心感を与えるところもあるのに、実際に現場は混乱している。医療的ケアと叫んでいるだけで、あるいはどこまでが医療、どこまでが介護と“曖昧に”言い合っているだけでは結局は患者のQOLに反映されないとされる。悪しきサマリア人法的な考えのようなものを作り、導尿は医療行為でなく、生活支援行為だという認知規範を変える必要がある。

女子大学生の体脂肪率肥満が睡眠の質に及ぼす影響

石川 英子・植田 福裕

肥満は睡眠時無呼吸症候群を始めとする睡眠の質と関係している。若年女性は瘦身志向が強く、約22%がやせに属している一方で、間違ったダイエットにより体脂肪率が高値になりやすい。本研究の目的は、若年女性を対象に、体脂肪率と睡眠の質の関連を明らかにすることである。女子大学生111人に対して2012年10月に調査を実施した。対象者の体脂肪率により2群に分類し、28%以上の体脂肪率肥満群は、71人（63%）であり、28%未満の体脂肪率標準群は、40人（37%）であった。睡眠の質の評価は、睡眠健康調査票簡易版の質問票を用いて調査を行った。重回帰分析の結果より、睡眠随伴症状関連リスク（ $p=0.040$ ）と睡眠時無呼吸関連リスク（ $p=0.005$ ）において、体脂肪率が統計的に有意な変数として残った。若年女性の体脂肪率肥満は、睡眠時無呼吸と睡眠随伴症状関連リスクの睡眠の質に関連がみられた。

大阪府公立中学校の給食実施状況

—食育推進の視点から—

宇佐見 美 佳・須佐美 幸 恵

大阪府下の各市町村がどのような方針で中学校の学校給食実施を進めているかを集約し、学校給食を生きた教材として活用する中学校の食育推進の可能性を検討するための基礎資料とすることを目的に調査を行った。給食実施率は中学校数レベルで平成27年3月現在66.7%であり、平成28年度予定は7市町村、検討中が2市町村であった。給食実施方式は4つが抽出され、提供方法として全員喫食と選択制に分かれた。食育の観点から、提供のみで終わらず、学校給食を生きた教材として食に関する指導を行う人材確保や、給食指導の時間確保、家庭・地域との連携等を今後の課題としてさらに検討していく必要がある。